

《薬局サーベイランスコメント》

『2017年第7週のインフルエンザの推定受診者数は約88万6000人と4週間ぶりに100万人を下回った。減少傾向は継続していくと予想されるがまだ流行状態にあることには変わりはない。』

2017年2月21日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

薬局サーベイランスによる今シーズン（2016/2017年シーズン）の2017年第7週（2月13日～19日）の全国のインフルエンザ推定受診患者数は2週連続して減少して886,017となり、4週間ぶりに100万人を下回りました（図1）。休日明けの月曜日（2月20日）の推定受診者数は158,576と3週連続して前週の月曜日の値よりも減少がみられており、第8週（2月20日～26日）の患者数も減少が続くと予想されます（図2）。

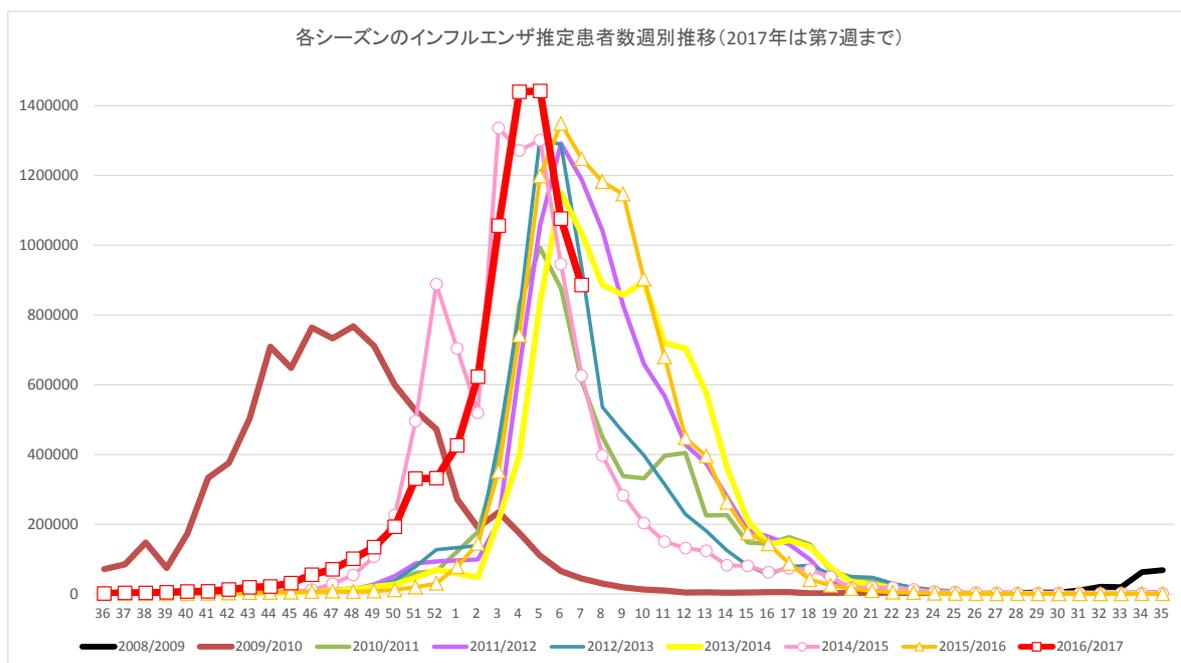


図1. 過去6シーズンと今シーズン（2016/2017シーズン）のインフルエンザ推定患者数の週別推移（第7週の推定受診患者数= 886,017）

2017年2月21日（2月20日分更新）

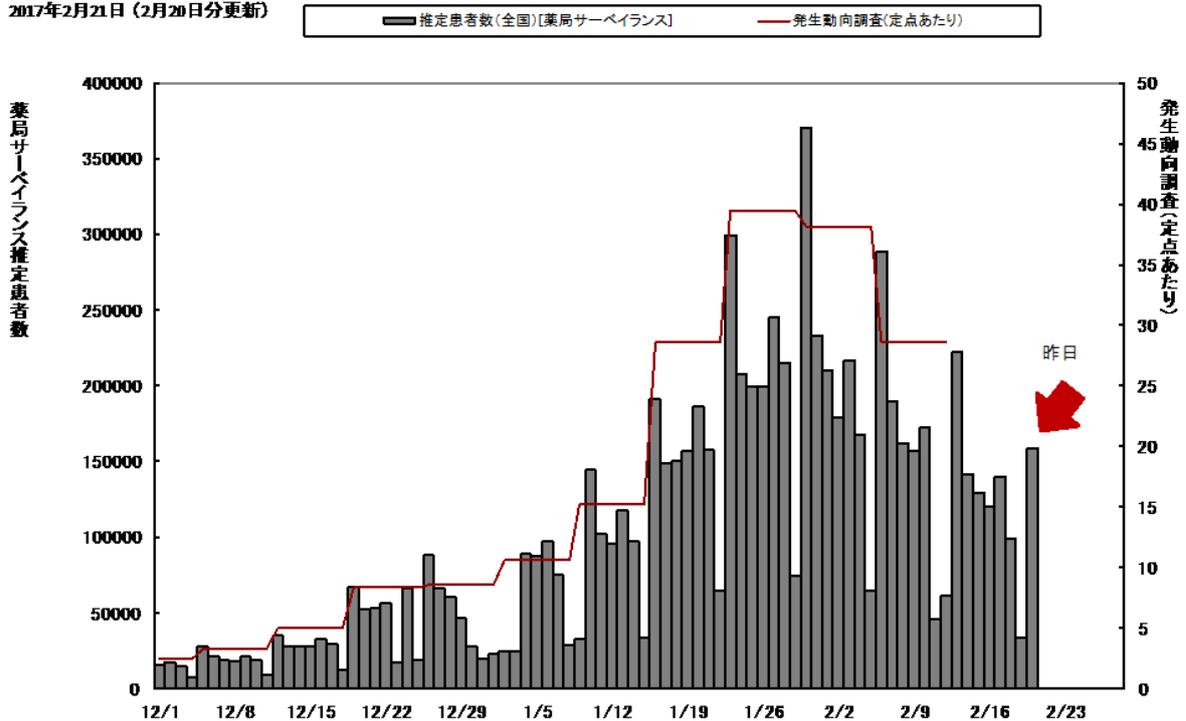


図2. インフルエンザ推定受診患者数の日別推移（2016年12月1日～2017年2月6日；2017年2月6日の推定受診患者数= 158,576）

2016年第36週から2017年第7週までの累積の推定患者数は8,278,589であり、日本の人口推計値（2016年11月1日現在、1億2695万人）で換算すると、推定の累積罹患率は約6.52%となりました。累積罹患率を年齢群別で比較すると5～9歳（21.94%、1,164,950人）、10～14歳（20.02%、1,101,294人）、0～4歳（13.91%、714,885人）、15～19歳（12.23%、731,345人）、30～39歳（6.11%、929,279人）、20～29歳（6.10%、774,954人）、40～49歳（5.44%、1,031,449人）、50～59歳（4.73%、727,721人）の順となっています（図3）。5～14歳の累積罹患率は20%を上回りました。

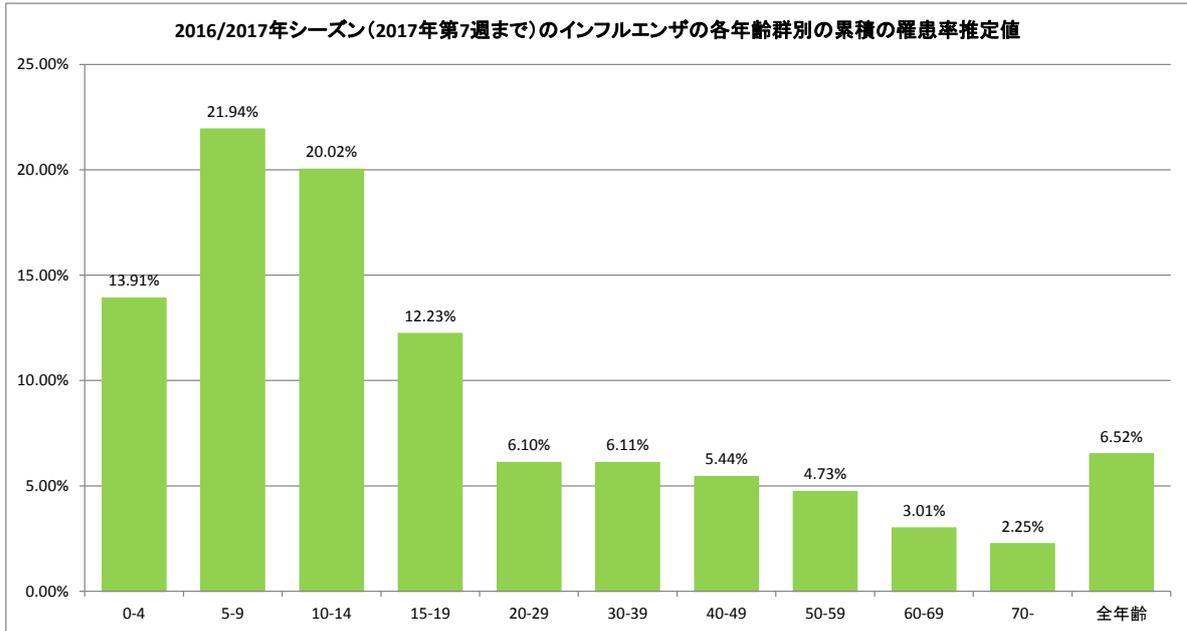


図3. 年齢群別のインフルエンザ罹患率推定値 (2016年第36～2017年第5週、累積の推定受診患者数総計= 8,278,589)

各都道府県別の2017年第6週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると、福井県、大分県、富山県、鹿児島県、高知県、北海道、熊本県の順となっています。38都道府県で前週(第6週)よりも減少がみられました。

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報(<https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf>)によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス(3,228検体解析)は、A/H3(A香港)亜型が91.9%と大半を占めており、次いでA/H1pdm 4.1%、B型4.0%の順となっています。

2017年第7週のインフルエンザの推定受診者数は2週連続して減少して約88万6000人となり、4週間ぶりに100万人を下回りました。減少傾向は継続していくものと予想されますが、まだ流行状態にあることには変わりはありません。今後ともインフルエンザの患者発生の変移には注意が必要です。